

いよいよ本格化する米企業決算のポイントとは？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米決算は14四半期連続上振れか？

米国株の今後のカギを握る米企業の決算発表が本格化します。23年Q3（第3四半期）のS&P500企業の予想EPS成長率は10月13日時点で前年同期比0.8%減（Bloomberg予想）となっており、4四半期連続で減益となる見込みです。

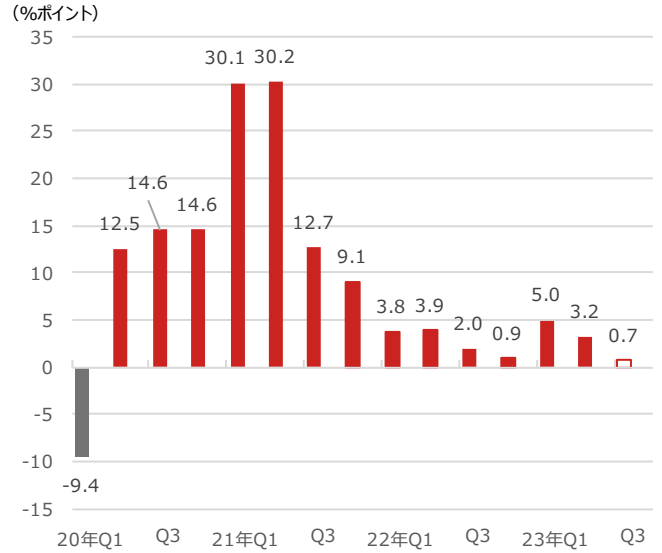
ただ、同成長率は23年Q2（第2四半期）の5.0%減から減益幅が縮小するとみられており、米企業の業績底入れが今回の決算で確認される公算が大きいといえます。また、S&P500企業のEPS成長率が、23年Q2まで13四半期連続で事前予想を上振れる結果となっている点は見逃せません（右上図）。アトランタ連銀の「GDP（国内総生産）ナウ」によると、7-9月期の実質GDP成長率（前期比年率、季節調整値）は5%超（10月10日時点）と推計されるなど、米経済が良好な状態にあることを考慮すると、今回の決算も上振れする可能性が高そうです。

ポイント② ハイテク業種が全体を支える構図へ

今回発表される23年Q3のS&P500企業のEPS成長率を業種別にみると、通信サービス（代表企業：アルファベット等）や一般消費財（同：アマゾン・ドットコム等）、情報技術（同：アップル、マイクロソフト等）といったハイテク業種が全体の業績を下支えするとみられています（右下図）。

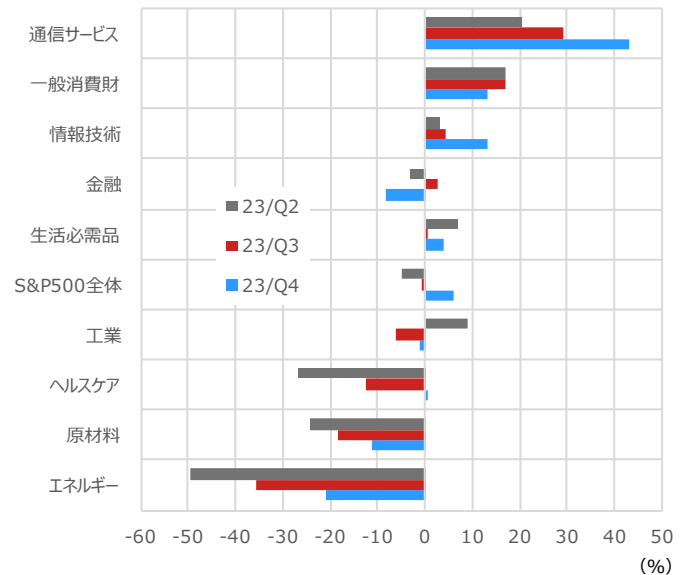
生成AI（人工知能）の急速な普及などもあり、時価総額が大きいハイテク企業を中心に先行き業績への明るい見方が広がれば、足元で調整基調にある米国株が上昇基調に転じるきっかけとなる可能性もあります。23年Q4（第4四半期）以降もハイテク業種の利益成長が見込まれており（同図）、当面の米国株はハイテク株を見直す動きが強まりやすい環境にあるといえそうです。

S&P500企業のEPS（1株当たり利益）成長率の事前予想と実績値との差



期間：2020年Q1（第1四半期）～2023年Q3、四半期
 ・事前予想は決算期終了直前週の数字を使用
 ・EPS成長率は前年同期比
 ・23年Q3は10月13日発表分までの値
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500企業の主要業種別のEPS成長率実績と予想



期間：2023年Q2～2023年Q4、四半期
 ・EPS成長率は前年同期比
 ・2023年Q3、Q4のEPS成長率は2023年10月13日時点のBloomberg予想
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一的見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全体の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。